

(34) アーユルヴェーダ薬草補助食品 [アムリット 5] 摂取後の脾臓リンパ球の増殖促進：免疫調節効果の証拠

文献名

Biochemical Archives, Vol.6, pp.267-274, 1990.

著者

Kottarappat N. Dileepan,* Vimal Patel,** Hari M. Sharma,+ and Daniel J. Stechshulte.*

実施場所

* Division of Allergy, Clinical Immunology and Rheumatology, Department of Medicine, University of Kansas Medical Center, Kansas City, KS 66160 (カンザス医学センター大学、医学部、アレルギー・免疫学・リウマチ学科、カンザス州カンザスシティ)

**Department of Pathology, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, IN 46223 (インディアナ医科大学、病理学部、インディアナ州インディアナポリス)

***Department of Pathology, Ohio State University College of Medicine, Columbus, OH 43210 (オハイオ州立大学、病理学部、オハイオ州コロンバス)

要約

アーユルヴェーダ補助食品 (アムリット 5) の生体内の免疫調整効果について、この調製剤を 1 日 50 mg、10 日間または 20 日間にわたり胃管栄養法でラットに与えることによって研究を行った。この処置を行った後、ミトゲンが誘発するリンパ球の増殖、マクロファージのスーパーオキシド陰イオンの産生、および食作用を検査した。アムリット 5 の摂取により、各種のミトゲンに対する試験管内でのリンパ球増殖反応が著しく増加した。アムリット 5 が媒介する刺激指数の増大は、フィトヘマグリチニン (PHA) の濃度の変化に応じて 32 ~ 88% の範囲で変化した。アムリット 5 による処置はリンパ球の自発的増殖には影響を及ぼさなかった。アムリット 5 の摂取により誘発されたリンパ球増殖反応は、10 日間処置されたラットにも有意な値が示され、アムリット 5 摂取停止後、最低でも 15 日間持続した。マクロファージのスーパーオキシド陰イオン産生および食作用は、アムリット 5 の処置によって変化しなかった。以上のデータは、この栄養補助食品を摂取すればリンパ球の反応性は高まるが、リンパ球の自発的増殖には影響しないことを示している。

アムリット 5 群のラットの脾臓細胞は、食物アレルギーを引き起こす代表的なタンパク質であるオバルブミンの攻撃を受けると、対照グループより 2~3 倍多いリンパ球を増殖した (アムリット 5 による刺激指数は、T 細胞の分裂刺激因子であるフィトヘマグリチニン (PHA) の濃度に応じて、32~88% 増加した) にもかかわらず、攻撃を受けていないときは暴走しないで通常の増殖を維持した。